

キャベツ (アブラナ科)

作る時期によって適した品種が決まっている。最適品種を選ぶことがまず大切。湿害に弱いので排水対策を十分に。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏まき年内どり								播種	定植		収穫		
夏まき年明けどり													
秋まき春どり													
春まき初夏どり													

1) 適地

生育期間が長いので、有機物に富む肥もちのよい畑が最適です。湿害に弱く、地下水位の高い水田や、水はけの悪い畑では高畝にします。

2) 品種

いろいろな品種がありますので、年間を通して栽培することができます。7月上旬から8月上旬に播種して10月から2月頃まで収穫する夏播き品種、9月下旬から10月中旬に播種して4月から6月まで収穫する秋播き品種、4月上旬に播種して盛夏にとる春播き品種に分けられます。

夏播き年内どり：初恋、輝吉、YR錦秋、さざなみ、YR湖月、新藍、グリーンボール（春系）

夏播き年明けどり：輝吉、彩ひかり、藍宝ひかり、彩音、冬のぼり（加工）

秋播き春どり：さつき王（加工）、さつき女王（加工）、金系201号（春系）

春播き初夏どり：新藍、YR錦秋、さつき女王（加工）、金系201号（春系）、グリーンボール（春）

3) 作り方

【播種】128穴セルトレイを用い、培土は、市販の種播き培土を使用します。培土をセルトレイに充填して播種穴をあけた後、1穴1粒ずつ種を播きます。コート種子の場合は播種板を使用すると作業が省力化できます。覆土にはSまたは2Sサイズのバーミキュライトを使用します。播種後は十分に灌水し、高温期の播種では24～36時間程度農舎内の涼しい場所に段積みして催芽し、遮光ネットを



播種板による播種作業

展張した育苗ハウスに並べます。9～10月に播種する場合は、播種後すぐにハウス内に並べても構いません。春播き初夏どりでは、最低温度を18℃程度に保てる温床に並べます。

【育苗】高温期は育苗ハウスに50%程度の遮光ネットを張って強光線を避けるとともに、サイドを全開にし、必要に応じて換気扇を回すなどハウス内の風通しをよくします。灌水は朝8時ごろまでにたっぷりを行い、夕方は少々萎れていても葉水程度にとどめます。水のやりすぎは、過湿による根腐れや立枯病の発生につながるので注意しましょう。秋や冬季の育苗でも水のやりすぎには注意し、培土の表面が乾くのを確認してからにしましょう。播種15日目頃より培土の肥料が切れてくるので、市販の液肥を500倍程度に薄めたものを3～5日に1回施用します。



セルトレイの苗

【圃場の準備】定植1か月前に1㎡当たり2kgの堆肥と苦土石灰100g、BMようりん50gを全面に施用して深く耕します。定植の数日前に高度化成肥料を1㎡当たり180g施用し、幅150cmの畝を立てます。



スプリンクラーによる灌水

【定植】播種後25日目頃で、本葉2.5～3枚の 때가適期です。条間50cmの2条とし、株間は35～40cmとなるよう定植します。定植後は散水チューブやスプリンクラーなどで十分に灌水し、雑草防除のために土壌処理除草剤を散布します。

【追肥・中耕】1回当たり高度化成肥料を1㎡当たり30gずつ施用します。1回目は定植15日目頃条間に、2回目は結球開始期に畝間または畝肩に施用します。3回目は年明けどりだけで、12月下旬に畝間に施用します。1回目の追肥時には除草をかねて中耕します。

【収穫】12月下旬から2月頃の厳寒期に収穫する作型では、収穫適期は比較的長いですが、その他の作型では適期が短く、すぐ裂球します。同一品種を同じ時期にたくさん作らず、播種や定植をずらしたり品種を変えたりして調整しましょう。



裂球

4) 病虫害防除

土壌病害では根こぶ病等があります。根こぶ病対策としては、作付前の土壌に根こぶ病対策の農薬を混合しておくところある程度軽減できます。食害の激しい害虫としてはアオムシ、コナガ、ヨトウムシ類があります。さらに、近年では結球前に侵入したアザミウマ類が結球内に残り、葉脈間を茶色く変色させる被害が増えています。定植時にセルトレイに灌注することで、定植後も1か月程度虫害を抑える農薬も出ていますので、散布剤と併せてこれらも利用することで効果的な防除が可能です。



根こぶ病